

書 評

竹本 忠良 著

胃と腸内視鏡検査のポイント

北海道大学医学部内科助教授

並 木 正 義

B5・頁230・図25・写真45・原色50
¥8,500 千200 医学書院 刊

気楽に読めて、しかもためになる本とは、本書のようなものをいうのであろう。

内視鏡に関する本で、読者の心をとええるには、著者によほど豊富な自己体験と実力がなければだめなものである。この点著者は、自ら血のにじむような苦難の道をのりこえ、今日の大家の地位を築きあげられただけあって、この本に書かれた一言一句に著者の思想がにじんでおり、読者を納得させ、ひきつける迫力がある。

頁をめくっていると、その昔、胃カメラが普及のきざしをみせはじめた頃、東大の内視鏡室にあって、これが胃内視鏡検査の本来の姿であるということを示すかのように、ただ黙々として胃鏡を覗いておられた当時の著者の面影が思い出されてならない。

これから内視鏡をやろうという初心者には、もちろん大いに役立つし、経験者は経験者なりに、なるほどとあらためて思い知らされる点があり、本当にためになる。

内視鏡の本として、まさにポイントをつく良いものが世に出されたものだ。

胃、腸に限らず、内視鏡を学ぼうとする人は、是非一読する価値がある。